

お知らせコーナー

予定の講座

【NPO法人設立講座】

NPO法人の設立のための手続きが分からない。書類の作成方法が分からない。などなど、設立についてのお悩みを解決する講座です。

とき 6月7日(火) 13:30~16:00
ところ コムズ視聴覚室B
定員 30名
参加費 無料
講師 愛媛県民活動推進課 職員
まつやまNPOサポートセンター スタッフ

【会計講座～初級編～】

今年から会計担当になられた方！団体を立ち上げて会計にお困りの方！NPO会計の初歩の初歩からプロがお教えする講座です。

とき 6月30日(木) 13:30~16:00
ところ コムズ視聴覚室B
定員 30名
参加費 無料
講師 愛媛中小企業指導センター職員



【事業資金調達実践道場】

活動への資金を獲得して、NPOの活動をより発展させるために、事業資金を調達するための秘訣など、飛躍的に成長させる視点が盛りだくさんの講座になります。

とき 6月18日、7月23日、8月27日 (土) 9:00~12:00
ところ コムズ視聴覚室A
定員 8団体(15名まで)
参加費 1団体(3名まで)5000円
講師 レックコンサルティングオフィス 代表 大須賀 泰昌さん
各講座のお申し込みは まつやまNPOサポートセンターまで

お問い合わせは まつやまNPOサポートセンター
〒790-0003 松山市三番町6丁目4-20 コムズ内
Tel: 089-943-5790
Fax: 089-943-5796
E-mail: pico@npo.coms.or.jp
URL: http://www.npo.coms.or.jp

まつやまNPO 検索

まつやまNPO サポートセン だより



2011

夏

P2~3
まつやまから元気を贈ろう ~被災地への応援活動

P4~5
NPOって何? ~自分たちの活動を理解されるために~

P6~7
NPOの会計で困らないための秘伝!



【発行】
まつやまNPO
サポートセンター

東日本大震災チャリティーイベントの紹介

この震災を受けて、まつやまから元気を贈ろうと各NPO団体が行った、チャリティーイベントをいくつかご紹介します。

楠本光男サックスの夕べ

障害被災者に支援の手を！！＜主催＞楽譜点訳おたまじゃくし ひめクラブ



サックスの音色が甘美でした。

4月17日にコンサートが行われ、入場者数は、約200名。義援金総額は339,316円でした。
4月27日に東京の(福)日本盲人会連合に全額寄付され、被災を受けた視覚障害者に届けます。

～しみん名画座「武士の家計簿」上映会～

＜主催＞マネキネマ シネマ・ロード



被災地社協活動写真展示

「しみん名画座」と題し映画の上映会を開催しているマネキネマ。今回は15周年記念として「武士の家計簿」上映会を行う予定でした。
しかしこの度の震災を受け、急遽「チャリティー上映会」として4月22日に行われました。中予地区に避難されている被災者の方も招待しました。
入場料収入と募金箱の総額は374,948円でした。全額を、愛媛県社会福祉協議会の災害ボランティア支援資金に寄付しました。

会計のワンポイントアドバイス

～年度末に苦労しないために～

ポイント：

**領収書の発生から、支払いまでの流れをスタッフ全員で共有する。
会計担当の記憶は、素早く記録に変換する。**

このポイントを押さえた処理を、ある団体では以下のように管理しています。参考にしてみてください。

1) スタッフの立替によって領収書が発生

2) 月末を締め切りとして、事務所へ郵送してもらう

会計担当への手渡しは、受け渡しの記録が残らないため、領収書紛失を防止するため、原則として郵送してもらっています。

(受け渡しの記録を残すことが重要になります)

締め切りに間に合わなかった領収書は、どれだけ高額であっても精算をしていません。

上記の点を団体の経理ルールとして徹底し、定期的に領収書回収の通知(領収書回収締切日まであと 日！！等)をしています。

3) 会計担当が、回収した領収書の一覧を作り、科目ごとに仕分け、領収書をとじる

一覧作成と領収書綴じを同日に行うことで、作業漏れや紛失を防ぐことができます。

4) 毎月10日に先月末までに回収したものを、振込によって精算する。

いわゆる「月末締め10日払い」です。

送金の記録を残すために立替をした人の銀行口座への振込みをしています。

(同じ銀行にしておくと、送金手数料が発生しない場合があります。)

金融機関によっては、一括で振込を行うことのできるサービスがあります。



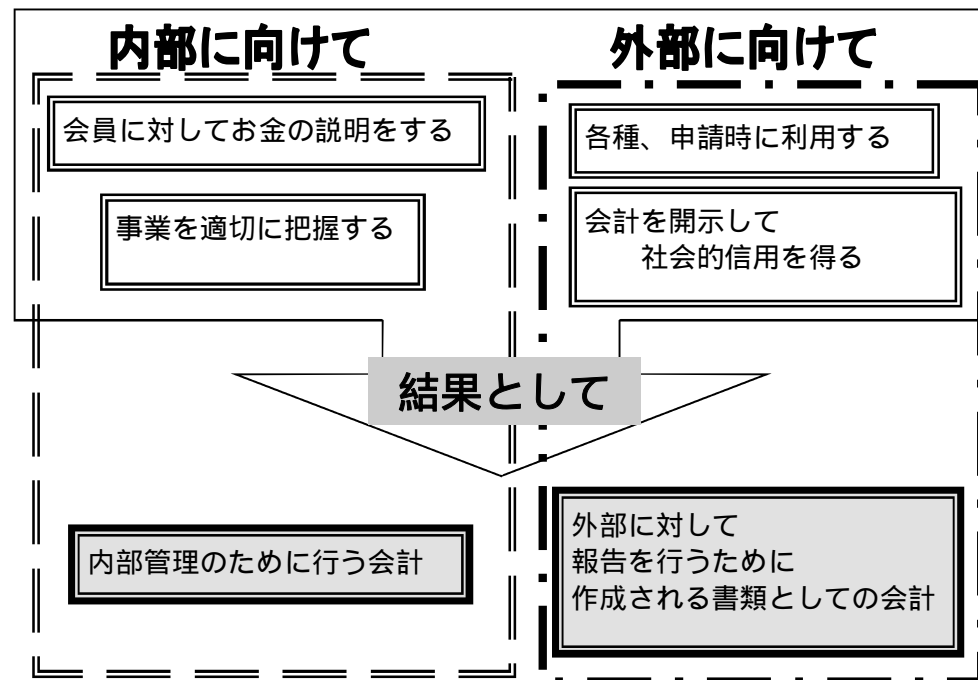
次号は、科目ごとの仕分けについての特集になります

NPO会計の基礎知識

サポセンスタッフの三好です。NPOの会計は、とても重要な役割をもっているにも関わらず、地味な作業ですよ。団体によっては、専門的な知識があるから担当が決まるのではなく、「几帳面な性格だから」といった理由から会計担当を任せられることもあるようです。突然任せられて、困ってる人もいるかもしれません。そんな方のために、まずは、NPOの会計の目的を下の図に示してみました。



NPOで会計を行なう目的



以上のように会計とは、内部を管理すると同時に、内外に対して信用を得て、あらたな賛同者や助成金や寄付金を獲得する重要な役割を担っています。では、そのためにどうすればいいのでしょうか。必要とされることを挙げてみました。

会計にとって必要なこと

1. 会計帳簿は、財産の動きや状態を全て表し、検証可能な証拠に基づき記録され、体系的に整然と記録されていること
2. 財産目録、貸借対照表、収支計算書を作成すること
3. 会計処理の方法を、毎年継続して使用し、みだりに変更しないこと
4. 特定非営利活動(本来事業)の活動とそれ以外(収益事業)の活動を分けて、経理を行うこと

いきなりこんなことを言われて、えっ！と心の中で叫んでしまった人のために
次のページでワンポイントアドバイスです！

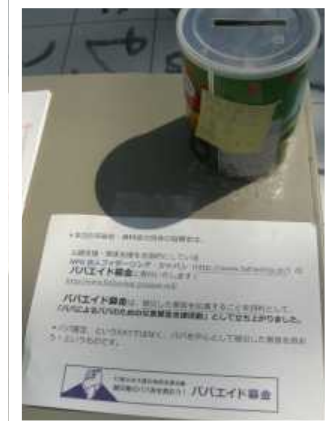
～ 家族・親子のきずなを考える ～

震災チャリティバザー＆フリーマーケット in 松山

<主催> 特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ



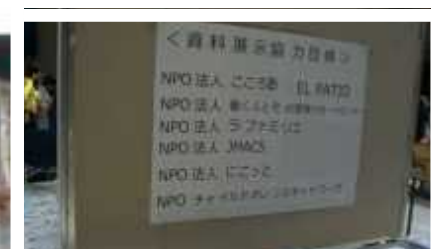
オーガニックのベビー服も並べました



募金先を明記して、
かわいいお菓子の缶の募
金箱を置きました。



宮城県女川町にてボランティア活動をしてきた角藤 純さんに被災地の様子や、今後私たちがしなければいけないことなどを話してもらいました。



NPO法人 ころ塾
NPO法人 働く人と
その家族サポートセンター
NPO法人 ラファミリエ
NPO法人 JMACS
NPO法人 にこっと
EL PATIO
NPO チャイルドオレンジネットワーク
が協力しました。

4月23日に松山市総合コミュニティセンター1階広場で、「家族・親子のきずな」をテーマに、震災チャリティバザーとフリーマーケットが開催されました。

当日の売上・募金は、NPO法人ファザリング・ジャパン(東京都)のパパエイド募金(被災地の家族を支援することに活用するを目的に設置 <http://www.fathering.jp/papa-aid/>)に寄付しました。

「NPOって聞いたことあるけど、実際に何をしているのか、どういうものなのか分からない。」
 という人は、まだまだ多いのではないのでしょうか。
 NPOという言葉自体が浸透しにくいのか、それともまだ、NPOが少ないからなのか。様々な理由を考える前に、まずは、以下のチェックリストで自分たちの活動を見直してみましょう。

- 1 多くの人の前で話すのは好きなほうだ
- 2 家族や友人は、自分がやっていることを理解している
- 3 メンバーみんなが、団体の概要や目標を共有している
- 4 誤解を受けていると感じたら、理解していただけるように工夫している
- 5 ブログの更新や会員などへの報告作業は、いつもやっている

みなさん、チェックリストはいかがだったでしょうか。
 活動がみんなによく見えているNPOは、たくさんチェックがついていると思います。



では、項目について振り返ってみましょう。

チェック1

多くの人の前で説明ができると、団体の方針や活動が理解されやすく、活動をしている人の顔が見えます。

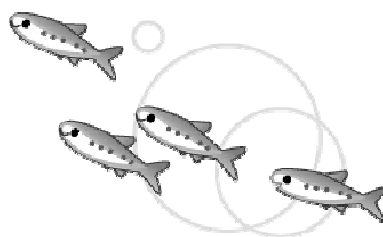
チェック2

家族や友人にやっていることが理解されるということは、手伝ってもらう仲間を増やすことになります。家族や友人は、一番の味方にもなってくれ、率直な意見を言ってくれる存在でもあります。



チェック3

メンバーみんなが、団体の概要や目標を共有している。それは、メンバーの一人一人が主体的に組織的に動くパワーの源となります。



チェック4

いきなりすべてを理解してもらうのは困難です。小さなことから理解していただくこと、それが応援団を増やすコツです。

チェック5

報告を定期的に行っている団体は、活動の内容が見えやすく、会員や支持者から理解を得られると共に、資金や人や物の活動の協力をいただきやすく、更なる活動へと発展するパワーを得ることができます。人に分かりやすく報告するということは、マスコミ各社へ情報提供する時にも役に立ちます。

まとめに

みなさん、いかがだったでしょうか。これらのことを着実に積み重ねて、各団体が市民から理解されることが、NPOの認知度を高めることにつながるのではないのでしょうか。

ある団体が、イベント開催時に、会場に「寄附金をお願いします。」という表示の寄附金箱を置いたところ、参加者の方から「何故ボランティアでやっているのに寄附が必要なんだ？」と疑っているような口調で尋ねられました。

団体としては、次回のイベントを開催するための資金が必要だったため、寄附金箱を設置したのですが、参加者にはうまく伝わっておらず、誤解を招いてしまいました。

そこで次回のイベントからは、寄附金の用途を説明する担当者をおいたり、会場アナウンスの際に「次回のイベント開催や、実際の活動に役立てられます。」とお伝えしたところ、寄附金の増加につながった事例もあります。

